

SHIMANTOGAWA MONOGATARI

2020.2.25
Vol.292

四万十川財団設立 20 周年記念！首長インタビュー 特別編！高知県知事 濱田 省司氏



いつも清流通信をご愛読いただきありがとうございます。今月の清流通信は、財団設立 20 周年企画流域首長インタビュー特別編！今回はな、な、なんと！高知県知事の濱田省司氏に取材にご協力いただきました！お忙しいなか本当にありがとうございました！！

■ 子どもの頃の四万十川の思い出

今回は貴重なお時間をいただきありがとうございます。早速ですが、知事は四万十市ご出身ということですが、子どもの頃の四万十川の思い出がありましたら教えてください。

濱田知事：私は四万十市中村の京町出身で、家から数分のところに後川（四万十川の支流）が流れておりますので、子どもの頃の遊び場と言えば後川でした。上流に 1 kmほど行ったところ、ちょうど中村高校の前辺りになりますが、夏場になるとよくそこで泳いで遊んでいましたね。また、父親が釣りをするのが好きで、よく後川でウナギを捕ったりしていましたが、父親がコロバシ（※ウナギを捕るための筒形の漁具）の回収に朝早くから行くのについて行って、ウナギがたくさん捕れているのを見たような記憶があります。テナガエビを捕りに行ったのも印象深いですね。夏には、堤防に生えているイタドリをとって、塩をかけて食べたりもしました。四万十川は遊び場でもありましたし、自然の恵みの場でもありました。子どもの頃の写真を見返しましても、だいたいの写

真には後川の堤防や橋が映っており、後川は幼少期の象徴的な風景だという思いがありますね。

ありがとうございます。今、ウナギやテナガエビといった川の幸が出てきましたが、知事にとって四万十川の思い出の味はなんでしょうか。

濱田知事：やはりウナギですね。子どもの頃はよく父親が捕ってきてくれておりましたので、当たり前すぎて、天然のウナギを食べられるというありがたさが当時はよく分かっていなかったのですが、改めて高知に帰ってきて四万十川の天然のウナギをいただきましたが、やはり天然は違うなと感じましたね。天然のほうは身がしっかりしていて味も濃くて非常に美味しいんですよ。今にしてみれば、あの体験は贅沢だったのだと思います。

■ 外から見る四万十

知事はこれまで東京や大阪など県外でもご活躍されてきましたが、県外から四万十川はどのように見られましたか。

濱田知事：やはり、四万十川は恵み多い川だなというのが印象的でしたね。先ほどから食べ物のお話ばかりになってしまっていますが、県外に行っても四万十川に触れる機会はやはり食でした。高知県のアンテナショップ等に行きましても、アオサノリや青のり、アユの加工品など川の幸を使った商品がさまざまにあって、四万十川は本当に川の恵みが多い、自然の宝庫なのだと感じる機会が



↑ 中村の京町通り



↑ 後川の風景

多くありましたね。

■ 四万十川の課題と対策

ありがとうございます。それではここから少しまじめな話に移りますが、県が考える四万十川の課題とその対策について教えてください。

濱田知事：高知県は、平成 13 年 3 月に四万十川条例を制定し、清流四万十川を後世に引き継いでいくことを宣言いたしました。以降、流域が一体となって河川清掃や森林整備等に取り組みながら、日本最後の清流を守っていくことを共通の目標に掲げ活動しておりますが、保全において懸念される問題の一つに、愛媛県側の支流である広見川からの農業濁水の問題があると思います。これは、濁水が発生する時期がちょうど GW と重なるために、多くの方が濁水を目にする事となってしまい、清流が売りの四万十川であるだけに、実際に観光客の方々からも失望の声が聞かれています。この問題に関しては、今までも高知県と愛媛県との知事会議の場でも情報交換をし、連携して改善に向けて取り組んでいくことを確認してまいりました。対策としては、農家の皆さんにこの問題について周知をし、啓発をしていくということがまず第一だと思いますが、石膏を投入したり、排水路に濾過材を設置するなどの具体的な対策を両県ともに研究し、その成果を共有してきました。今後も引き続き両県で協力して取り組んでいく所存です。（※広見川の濁水問題については清流通信 284 章・285 章で詳しくご紹介しています。）

また流域の振興に目を向けますと、これは中山間地域共通の課題ではありますが、人口減少が進んでいくなかで地域の豊かな自然環境や文化を守りながら、次世代に引き継いでいくことが難しくなっているという課題があります。これらを守るためには、地域で人が暮らし続けてくことが非常に重要ですが、そのためには地域に仕事があればいけません。この点に関しては、県の産業振興計画で示した地域アクションプランの取り組みとして、四万十川流域においても道の駅を核とした拠点ビジネス

の展開、四万十ブランドを活用した商品作り、ジップラインに象徴されるようなアウトドア観光の推進等を行いながら、地域の賑わいづくりも含めて、暮らし・産業を支えていく取り組みを今後も継続して行うよう考えています。加えて、市町村にも協力していただきながら、集落活動センターの整備を進め、持続的な活動を支援することで、担い手確保や地域の生活・自然を守る拠点として機能するようサポートしていきたいと考えています。

■ 四万十川財団に求めること

それでは最後になりますが、今後四万十川財団に求めることがありましたら教えてください。

濱田知事：財団の皆さまには、清流通信をはじめとした流域の情報発信を通して、住民と行政を繋ぐパイプ役としてご活躍いただいております、心より感謝を申し上げます。また、流域文化を伝える人材育成の取り組みに今後もさらに力を入れて取り組んでいかれるということで、大変期待をしております。やはり清流保全を進めていくうえでは、流域住民の皆さまの清流保全に対する意識の高さが重要であると思いますので、清流を守り磨き上げていくための活動にぜひ積極的にご参加いただけるよう、サポートを行っていただきたいと思います。また、後世に引き継ぐという点においては、流域の子どもたちが川で遊んだり、学んだりした経験が郷土愛に繋がり、さらに流域の保全や地域の振興に繋がっていくと考えておりますので、今後も環境学習等、子どもたちが川に触れられる環境づくりに継続して取り組んでいただきたいと思います。

当初は流域 5 市町の首長のインタビュー記事をお届けする予定だったこの企画。が、ここまで来たら県知事にも！とダメもとでお願いしてみたところ、なんと本当に実現してしまいました！お忙しいところお時間を割いていただき、濱田知事には本当に感謝しております。お話のなかでは、今後も四万十川流域の発展に向けて一緒に

尽力していきましょう、というありがたいお言葉もいただきました。また知事のバックボーンには四万十川があるということも分かり、これは財団にとって、大きな後ろ盾になるのではないかと感じています。財団としても、来年度から新たな動きも始まります。これから一層気を引き締めてやっていかなければいけないと感じた、実りある取材でした。

計6回と連載してまいりましたこの企画も、今回で本当に最後になりました。流域市町の首長、県知事に加え、これまでこの企画にご協力頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。読者の皆様には各市町、高知県の四万十川への想いが少しでもお伝えできていれば幸いです。これからも清流通信を通して、四万十川のさまざまな情報をお届けしてまいりますので、お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

■ 四万十川財団 21 年目がスタート！

1983 年、NHK 特集「土佐・四万十川～清流と魚と人と～」が放送され、“日本最後の清流”という強烈な代名詞とともに一大ブームとなった四万十川。その後高知県では四万十川の清流と四万十に生まれた文化を守ろうと、平成初期からさまざまな取り組みを進めてきました。そんな取り組みのなかで生まれた四万十川財団も、今日で 21 歳の誕生日を迎えます。これまで高知県・流域市町をはじめ、流域住民の皆さま、会員の皆さまなど多くの方々に支えていただき、活動を続けることができました。21 年目を迎え、財団では来年度から川漁体験プログラムや清掃イベントの開催など、新たな動きが一気にスタートします！今まで以上に四万十川の保全と流域の振興によりダイレクトに働きかけられるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきますので、今後とも四万十川財団をよろしくをお願いいたします。

SHIMANTO NEWS

■ 源流の町の日常を楽しむ「つねづね」が開催！



四国カルストに四万十川源流点の不入山と、豊かな山々に囲まれた農村景観が広がる津野町。そんな津野の日常を地域の人と一緒に楽しめる、体験マルシェ「つねづね」が3月6日（土）～3月31日（水）までの期間で開催されます。津野の人々にとっては当たり前である日常をイベント用に体験メニュー化し、津野が持つ観光のポテンシャルを広げたい、そしてそれが、一滴の水から始まる四万十川のように、どんどん大きくなって、たくさんの人に津野を知ってもらえるきっかけになってほしい、イベントにはそんな想いが込められているそうです。古民家の縁側でお茶を飲みながら雛飾りを楽しんだり、源泉かけ流しの温泉と手毬寿司がかわいい特別ランチをいただいたり、河原で自家製のベーコンを焚火で炙って食べたり、と豊かな津野町の暮らしをそのまま楽しめる体験メニューが、全部で10種類用意されています。なかには四万十リバーマスターとして財団の活動にご協力いただいている方の体験メニューもあるそうで、これはぜひ行かねば！と思ってます。それぞれ開催日や案内してくれる人も違うみたいなので、複数に参加してみてもいいですね。参加すればあなたも津野のトリコになってしまうこと間違いなしです。3月は津野の日常を味わいにぜひ津野町までお越しください。

～四万十源流点のまち津野町体験マルシェ「つねづね」～

＜開催期間＞ 2021年3月6日（土）～2021年3月31日（水）

＜お申し込み＞申し込み方法や締め切り、定員などは体験メニューによって異なります。詳細は下記ページをご確認ください。

イベントパンフレット：PDF データ ←こちらをクリックしてください

奥四万十観光協議会 HP：<https://okushimanto.jp/archives/25534>

＜お問い合わせ＞津野町役場産業課（地域おこし協力隊） TEL：0889-55-2021